

横浜の未来を  
結ぶ会

2014年1月号 vol.14号

市政報告書

横浜市議員

# 木下よしひろ 市政レポート



発行：木下よしひろ政務調査事務所 <http://www.kinoss.jp/>

## 増税の継続に反対

横浜市会平成25年第4回定例会にて審議されました、「横浜みどり税条例」の期間延長(増税期間を平成26年度から5年延長)に関する議案に対して反対をしました。

理由は、増税の必然性が無いからです。みどり税は、緑の保全等のために使うとされてきました。確かにその目的は重要だと思います。しかしながら、増税ではなく今ある一般財源の範囲内で実施すれば良いのです。市の財政局からは、土地の購入等に安定的な財源が必要だと説明がされますが、安定的な財源が必要なのは緑の保全に限りません。

横浜市の平成25年度一般会計予算は、約1兆5000億円です。みどり税の税収は、毎年25億円程

度と見込まれています。そして、平成26年度からは、防災・減殺対策の財源として、市民税が500円上乗せになります。みどり税は900円の上乗せですから、合計で今年の4月から1年間あたり1,400円の増税となるわけです。これは世帯当たりではなくひとりひとりにです。消費税の増税と合わせて、横浜市民の皆様の負担は上昇するばかりです。

今回の増税は、議会の賛成多数で可決されました。問題は「お金がない」ではなく、政策の優先順位付けです。本当に必要であれば、一般財源の中でやり繰りをし、優先順位の低い政策を見直し、無駄をなくし、支出を削減していく。そういう横浜市政のあり方を、今年も求めて参ります。

### 3ケ年の財政収支は▲1,470億円不足！

横浜市が発表した財政収支見通しによれば、今後毎年400億円以上の収支ギャップ(収入より支出が多い財政不足の状況)が発生し、平成26年度から平成28年度までの3ケ年では▲1,470億円の財政収支不足が見込まれています。

市では、区庁舎の建て替え、新市庁舎の建設(総事業費約1,400億円)、市庁舎の跡地にホールや文化施設を建てる計画案、横浜文化体育館の再整備など、大型の公共事業の予定や計画案が進んでいます。

これらの箱物建設の財政負担は、現在及び将来の横浜市民が負う事となる為、事業自体の見直しや少しでも事業費を圧縮する努力が必要です。横浜市も近い将来人口減少社会に転じることが確

実視される中、このような市の財政状況と事業の優先付には危機感を感じます。

我々は、この流れを変えるべく、議会の内外で、しっかりと意見の表明や政策提言を続けて参ります。

#### 木下よしひろのプロフィール

1977年 12月21日生まれ。36歳。178cm  
横浜市立幸ヶ谷小学校卒業/横浜市立栗田谷中学校卒業  
神奈川県立横浜翠嵐高等学校卒業/東京学芸大学教育学部卒業  
東京学芸大学大学院修了(教育学修士)

##### 【職歴】

横浜市立中学校講師/横浜市立中学校事務主事  
横浜市立小学校事務主事/横浜市立中学校教諭  
2011年4月横浜市議員初当選  
横浜の未来を結ぶ会所属/水道・交通委員/大都市行財政制度特別委員  
趣味：サッカー、テニス、卓球  
好きな食べ物：チーズケーキ、ままだおる